

JA ユーザーマニュアル

prismaTS

Löwenstein Medical Technology
治療装置のデータ分析用の PC ソフト
ウェア

バージョン 5.13

LÖWENSTEIN
medical

目次

1	はじめに	3
2	使用方法	4
2.1	prismaTSの起動	4
2.2	患者管理	5
2.3	患者－装置割当ての編集	12
2.4	治療装置の選択	15
2.5	治療データのインポート	16
2.6	治療データのエクスポート	26
2.7	治療データを削除	28
2.8	アーカイブや削除に対して治療データを保護する	29
2.9	レポートの作成(LM150TD用ではありません)	31
2.10	装置情報の表示	34
3	設定 (LM150TD 用ではありません)	36
3.1	パラメータを設定する	36
3.2	設定履歴の使用	40
3.3	マスターSDカードの使用	42
3.4	一定期間後に治療データを削除・アーカイブする	43
4	治療チェック	46
4.1	統計表示を開く	46
4.2	治療カレンダーの表示	48
4.3	治療分析の表示	51
4.4	信号データ表示を開く	52
5	付録	62
5.1	テクニカルデータ	62
5.2	ラベルと記号	62
5.3	適合宣言書	62

1 はじめに

このユーザーマニュアルには、prismaTSの操作に関する情報が含まれています。

以下の情報は別個のインストール方法で見つかります：

- 用途と機能
- 安全に関する情報
- システム要件
- ネットワーク設定
- インストールと更新
- 機能点検
- トラブルシューティング
- リモートメンテナンス
- テクニカルデータ

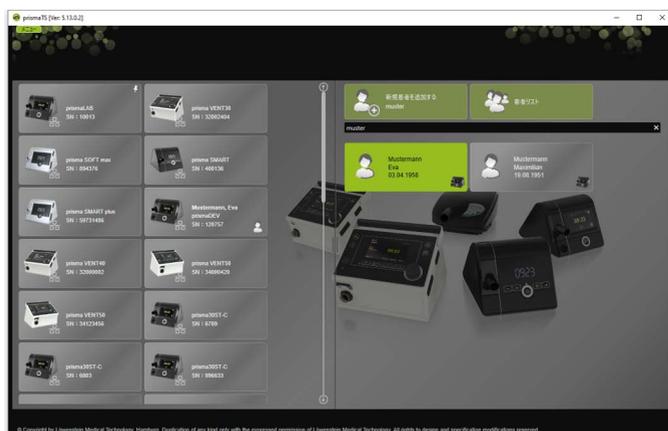
2 使用方法

2.1 prismaTS の起動

1. デスクトップ上の **pTS** ショートカットをダブルクリックします。

または

メニュー項目**スタート** > **すべてのプログラム** > **Löwenstein Medical Technology** を開き、**prismaTS.exe**をクリックします。



2.1.1 オンラインヘルプ/ユーザーマニュアルを開く

1. F1を押してオンラインヘルプを開きます。

または

メニュー > **ヘルプ**をクリックします。

PDF形式のユーザーマニュアルは、インストール媒体の **Manuals** フォルダと、ハードディスクのインストールパスの **Manuals** フォルダに用意されています。内容はオンラインヘルプと同じです。

2.1.2 言語の選択

prismaTSはさまざまな言語で利用できます。

1. **メニュー** > **言語の変更**をクリックします。
2. 使用したい言語を選択します。
3. prismaTSを再起動します。

2.1.3 圧力単位を選択

prismaTSに表示される圧力値には、さまざまな圧力単位を使用することができます。

1. **メニュー** > **オプション** > **設定** > **表示**をクリックします。
2. 使用したい圧力単位を選択します。

選択した圧力単位は、prismaTSlabにも自動的に適用されます。

2.2 患者管理

2.2.1 患者の検索

クイック検索



1. 患者の姓を検索フィールドに入力します。
一致が見つかった場合は、提案の形で自動的に表示されます。
一致が見つからない場合は、その名前で新規患者を作成するよう提案されます ([「新規患者の追加」](#)を参照)。

高度検索

1. **メニュー** > **患者** > **患者リスト**をクリックします。

または



2. **患者リスト**をクリックします。



3. 既存の患者を検索するには、右上角にある空の検索フィールドに検索語を入力します。
4. 必要に応じて：検索する項目を特定するには、検索フィールドの横にある下矢印ボタンをクリックして**検索条件**：リストを開きます。
5. 必要に応じて：**検索条件**：リストで必要なボックスにチェックを付けます。



ヘッダーにある項目をクリックすることで、患者リストの順序を並べ替えることができます。矢印は、昇順か降順かを示しています。

6. 編集したい患者を選択するには、対応する名前をクリックします。
7. **OK**をクリックして、選択を確認します。
または
対応する行をダブルクリックします。

2.2.2 新規患者の追加



1. **新規患者を追加する**をクリックします。
または
メニュー > 患者 > 新規患者を追加する をクリックします。
または



2. **患者リスト**をクリックします。



3. 患者の選択ウィンドウの**新規患者**をクリックします。



4. 患者データを入力します。



*印のあるフィールド (**名**、**姓**、**生年月日**) は必須フィールドであり、記入が必要です。

患者の年齢は、生年月日に基づき自動的に計算されます。

prismaTS情報バーやレポート（「[レポートの作成\(LM150TD用ではありません\)](#)」を参照）で使用するために、患者から提供されている電話番号の1つを、第一優先の電話番号として保存することができます。

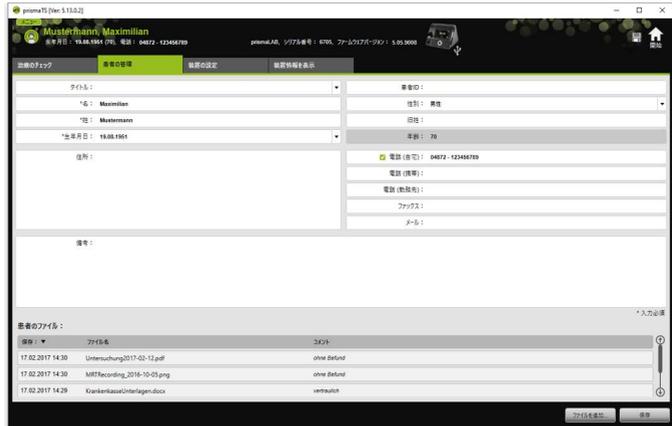
5. 電話番号を入力した後、電話番号フィールドで右クリックします。
6. **標準として指定**を選択してください。  記号は、第一優先の連絡先番号を示します。
7. **保存**をクリックします。
8. 利用可能な装置のリストから装置を選び、マウス左ボタンを押したまま、開いた患者ファイルへとドラッグすることによって（ドラッグ&ドロップ）、その患者に割り当てることができます。



よく使用される装置や患者のファイルはスタート画面にピン留めしておくことができ、これにより、画面上の望みの位置に常に表示させておくことができます。ピン留めをするには、患者-装置タイトルの右上角のピン記号をクリックします。

2.2.3 患者データの編集

1. 患者ファイルを開きます (「[患者の検索](#)」を参照)。
2. **患者の管理**タブをクリックします。

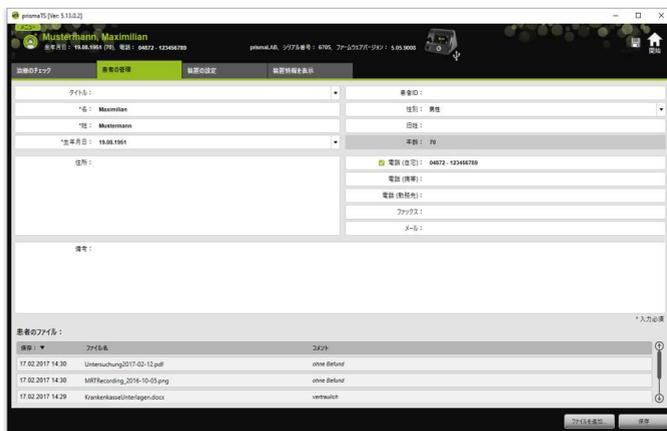


3. 患者データを編集します。
4. **保存**をクリックします。

2.2.4 患者のファイルの管理

ある患者に関して保存されたレポートすべてが、その**患者のファイル**セクションに自動的に保存されます。他のファイル (外部システムからのファイルも含む) をここに保存することができ、これによって、患者に関するすべてのデータをひとまとめにすることができます。

1. 患者ファイルを開きます (「[患者の検索](#)」を参照)。
2. **患者の管理**タブをクリックします。



3. 新しいファイルを追加するには、**ファイルを追加**をクリックして、追加したいファイルを選択します。
希望する場合は、そのファイルの簡単な説明を入力してください。
4. 既存のファイルを開く、削除する、または別の場所に保存するには、そのファイルの上で右クリックして、それぞれのメニューを選択してください。
開くことができるファイルは、お使いのPCにソフトウェアプログラムがインストールされているものに限定されます。

2.2.5 患者の削除

1. **メニュー > 患者 > 患者の削除**をクリックします。
2. 患者を検索するには、左上角にある空の検索フィールドに検索語を入力します ([「患者の検索」](#)を参照)。

姓 ▲	名	生年月日	性別	電話	患者ID	装置
Bechermann	Arndt	27.10.1967 (54)	男性	0456 - 12345		
Becker	Thomas	14.07.1967 (54)	男性	05236 - 1234...		
Blum	Klara	16.11.1952 (69)	女性	07456 - 1234...		
Börne	Karl-Friedrich	15.07.1963 (58)	男性	02336 - 1234...		
CarryImportData	MyJob	09.11.1969 (32)	不明			new
Cartière	Michel	08.11.1978 (43)	男性	0033 3672 - 1...		
Dallas	Corben	14.07.1960 (61)	男性	010 555 3673...		
Eberhofer	Franz	06.07.1975 (46)	男性	08356 - 1234...		
Faber	Hannes	05.08.1943 (78)	男性	08289 - 1234...		
Haas	Sophie	17.03.1972 (50)	女性	02247 - 1234...		
Kauth	Jochen	01.05.1971 (51)	男性	02236 - 1234...		new
lalmaver	Franz	21.05.1959 (63)	男性	08173 - 1234		

- 削除したい患者を選択するには、対応する名前をクリックします。
- 患者を削除するには、**削除**をクリックします。

または

対応する行をダブルクリックします。

- 削除するには、**患者の削除**ウィンドウで**削除**をクリックします。
すべてのデータが永久的に削除されます。

2.3 患者－装置割当ての編集

いったん割り当てた後は、装置が接続されるとすぐに対応する患者が検出されます。これにより、患者を検索する必要がなくなります。インポートされた治療データが、割り当てられた患者に自動的に保存されます。

2.3.1 患者－装置割当ての作成



シリアル番号が0の装置に患者を割り当てることはできません。

1. 左マウスボタンを押したまま、目的の装置を装置リストからメインウィンドウの目的の患者までドラッグ&ドロップします。

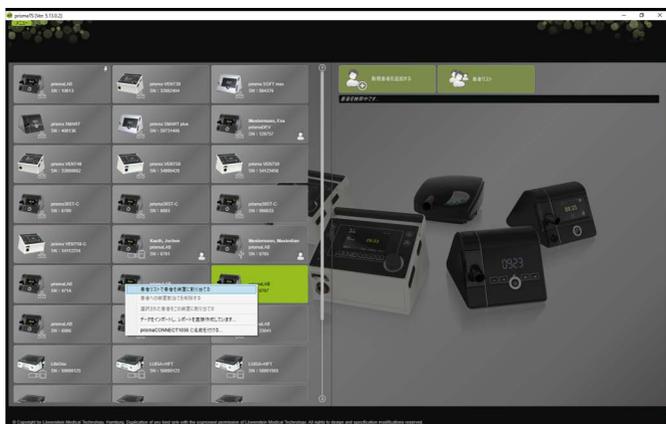
装置記号がその患者に表示され、その装置には患者記号が表示されます。

または

メインウィンドウで必要な患者と装置を選択します。

2. 装置を右クリックします。
3. **選択された患者をこの装置に割り当てる**を選択します。

または



患者リストで患者を装置に割り当てるという項目を選択します。



既存の患者を選択するには、**患者リスト**で対応する名前をクリックします。

OKを押して、この患者を装置に割り当てます。

- 別の装置にすでに割り当てられている患者  に、装置を割り当てたい場合は、まず既存の患者と装置の間の接続を削除する必要があります (「[患者－装置割当ての削除](#)」を参照)。



別の方法として、治療装置を選択する際に患者も割り当てることができます (「[治療装置の選択](#)」を参照)。

2.3.2 患者－装置割当ての削除

- 装置が接続されているときに、メインウィンドウで、患者の割当てを解除したい装置にマークを付けます。
- 患者を右クリックします。
- 患者への装置割当てを削除する**というエントリを選択します。
- プロンプトが表示されたら、割当ての削除を確認するため、**はい**をクリックします。



患者を変更する場合は、最初に既存の患者－装置割当てを削除してから、その装置を別の患者に割り当てます。

2.4 治療装置の選択

LAN、USBで接続されている、または挿入されたSDカードに記録されている装置すべてが表示されています。

1. 必要な治療装置を、このリストでダブルクリックします。
2. 選択された治療装置に、すでに患者が割り当てられている場合は、その患者のファイルが開きます。
これで治療データをインポートすることができます（「[治療データのインポート](#)」を参照）。

または

治療装置が患者に割り当てられておらず、特定の患者について重要な治療データや装置シリアル番号などを保存したい場合は、**今すぐデータを患者に割り当てますか？**というウィンドウに対して**はい**と答えます。

データを1回見るだけ、または患者に割り当てずに治療装置を設定したいだけの場合は、**いいえ**をクリックします。



3. 既存の患者を選択するには、**患者リスト**で対応する名前をクリックします。
4. **OK**を押して、この患者を装置に割り当てます。
5. 別の装置にすでに割り当てられている患者  に、装置を割り当てたい場合は、まず既存の患者と装置間の接続を削除する必要があります (「**患者－装置割当ての削除**」を参照)。

2.5 治療データのインポート

治療データは、治療装置またはSDカードから直接インポートすることができます。



次の場合は、治療データのインポートは**できません**：

- 治療が進行中のとき
- 装置からデータをSDカードにコピーしているとき (対応する治療装置の取扱説明書を参照)
- 治療の終了直後で、記録された治療データを装置がまだ処理中のとき (対応する治療装置の取扱説明書を参照)。インポートが試みられた場合は、prismaTSに、「**リクエストされた装置はデータを処理中であるか、またはすでに使用されています。**」というメッセージが表示されます。
- 装置がprismaTSlabで選択されているとき
- 装置が手動で設定されている場合。

治療装置を PC に接続してインポートする場合

治療データを治療装置からインポートできるようにするために、治療装置をPCに接続しなければなりません。

要件：

- 治療装置が電源に接続されていること (治療装置の取扱説明書を参照してください)。
- 治療装置が**スタンバイモード**であること (治療装置の取扱説明書を参照してください)。

- SOMNO装置：コンバーターケーブルドライバーがインストールされていること（インストール説明を参照してください）。

装置のタイプと用途別に、治療装置と PC を接続するオプション						
	LM150TD	WM120TD	WM110TD	WM100TD	WM090TD	SOMNO装置
治療データのインポート	USB-C	LAN SDカード	LAN SDカード	LAN USB SDカード	LAN SDカード	USB SDカード
治療装置の設定	-	LAN*	LAN*	LAN* USB SDカード	LAN* SDカード	USB SDカード

*LAN接続を使用する場合は、設定はprismaTSlabでのみ行うことができます。

USB 経由で治療装置を PC に接続する



必ず専用のデータケーブルを使用してください。専用でないUSBケーブルを使用すると、データをインポートする際に支障が生じることがあります。

1. WM100TD：専用のUSBケーブル（例えばWM 35160）を、治療装置のMicro USBポートに接続します（治療装置の取扱説明書を参照してください）。
または
2. SOMNO装置のみ：USBコンバーターケーブル（例えばWM 93321）を、治療装置のシリアルインタフェースに接続します（治療装置の使用説明書を参照してください）。
3. この専用USBケーブルを、PCのUSBポートに接続します。

SOMNO装置：Windowsの各装置に、COMポートが自動的に割り当てられます。

LAN 経由で治療装置を PC に接続する

1. 通信モジュール (prismaCONNECTまたはprisma HUB) を治療装置に接続します (prismaCONNECTまたはprisma HUB モジュールの取扱説明書を参照してください)。
2. イーサネットケーブルをモジュールのLANポートに接続し、次にPCのLANポートに接続します。

または

通信モジュールを利用して、治療装置をネットワークに接続します。
PCをネットワークに接続します。
3. 必要に応じて：ネットワークモジュールのネットワーク設定を変更します (prismaCONNECTモジュールまたはprisma HUBconfigソフトウェアの取扱説明書を参照してください)。

2.5.1 患者が割り当てられている装置から治療データをインポートする方法

要件：

- 装置がPCに接続されていること (「治療装置をPCに接続してインポートする場合」を参照)。
- 選択されている装置が患者に割り当てられていること (「患者－装置割当ての作成」を参照)。
- 治療データが装置に保存されていること。

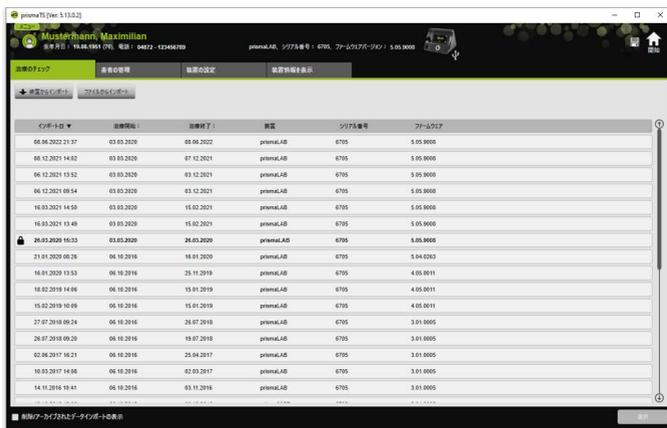
注意

治療データを誤った患者に割り当てると、治療を行う上で、支障を引き起こすことにつながります！

治療データを装置からインポートする際の、装置の混乱や、不正確な装置－患者割当てにより、不正確な分析や不正確な治療がもたらされる可能性があります。

⇒ 正しい患者が選択されていることを確認してください

1. 治療データが含まれたレポートをすぐに印刷するには、装置を右クリックしてください。
データをインポートし、レポートを直接作成しています...を選択します。(「**レポートの作成(LM150TD用ではありません)**」を参照)。
2. データをインポートするには、利用可能な装置リストで、患者が割り当てられている装置をダブルクリックします。
インポートできるリストが表示されます。



3. 装置から治療データをインポートするには、**装置からインポート**をクリックします。

インポートされた治療データが、割り当てられた患者に自動的に保存されます。



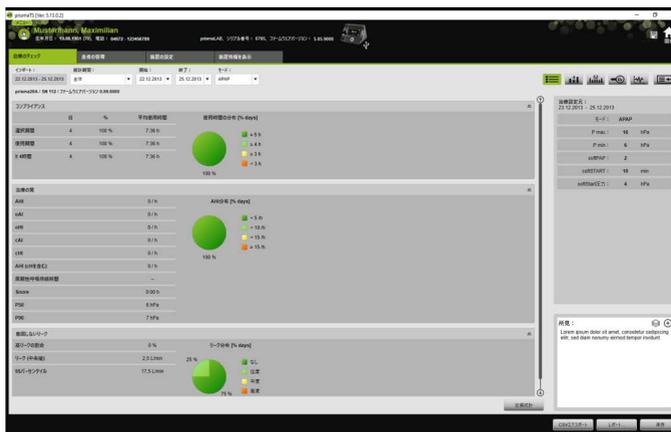
治療データを誤って違う患者に保存した場合は、その治療データを本来の患者に転送することができます(「**誤って割り当てられた治療データを正しい患者に割り当てる方法**」を参照)。

2.5.2 患者が割り当てられていない装置からインポートする方法

要件：

装置がPCに接続されていること（「治療装置をPCに接続してインポートする場合」を参照）。

1. 必要な治療装置を、利用可能な装置リストでダブルクリックします。
2. 患者を割り当てたくない場合は、**割り当てられている患者はいません**というウィンドウで**はいえ**をクリックします。
3. **装置からインポート**をクリックします。
治療データがインポートされます。



インポートされた治療データが表示されますが、まだ保存されていないので注意してください。

4. インポートされた治療データを保存するには、**すべてを保存**  をクリックします。
5. **はい**をクリックします。



- 削除したい患者を選択するには、**患者リスト**で対応する名前をクリックします。
- OK**をクリックします。

または

ハイライトされた患者名をダブルクリックします。



治療データを保存しただけでは、装置はこの患者に割り当てられていません。

患者に対して治療データを保存し、かつこの患者にこの装置を割り当てるには、別に装置－患者割当てを実施する必要があります（「[患者－装置割当ての作成](#)」を参照）。



データを誤って違う患者に保存した場合は、その治療データを本来の患者に転送することができます（「[誤って割り当てられた治療データを正しい患者に割り当てる方法](#)」を参照）。

2.5.3 SD カードからインポートする方法

例えばSDカードに治療データがある場合は、そこから治療データを直接インポートすることができます。

1. 混同を避けるため、患者の名前と生年月日がSDカードにラベルされているかどうかチェックします。
2. SDカードを、PCのSDカードスロットに挿入します。

prismaTS が開いている場合：

SDカード記号  が、SDカードの元の治療装置のシリアル番号と共に、利用可能な装置リストに表示されます。

1. 表示されたシリアル番号を治療装置のシリアル番号と同じか確認してください。
2. 治療データが含まれたレポートをすぐに印刷するには、装置を右クリックしてください。
データをインポートし、レポートを直接作成しています...を選択します。(「[レポートの作成\(LM150TD用ではありません\)](#)」を参照)。
3. データをインポートするには、インポートリストで**SDカードからインポート**をクリックします。

prismaTS が開いていない場合：

1. SDカードのprismaTSファイルをダブルクリックします。
prismaTSがスタートし、治療データがインポートされます。

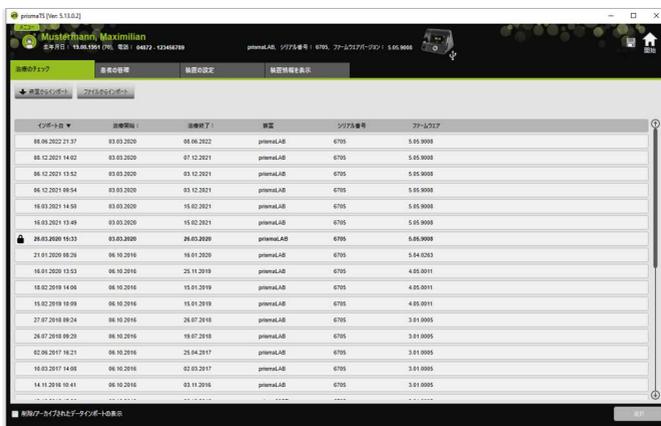
2.5.4 ファイルからインポートする場合

PCのファイルに治療データがある場合は、そのファイルから治療データをインポートすることができます。

prismaTSが開いている場合：

1. 治療データを保存したい患者を選択します。
インポートできるリストが表示されます。
2. ファイルから治療データをインポートするには、**ファイルからインポート**をクリックします。

3. ファイルを選択します。



インポートされた治療データが、選択された患者に自動的に保存されます。

prismaTS が開いていない場合：

1. prismaTSファイルをダブルクリックします。

prismaTSがスタートし、治療データがインポートされます。

2. 治療データを対応する患者に割り当てます（「[患者一装置割当ての作成](#)」を参照）。



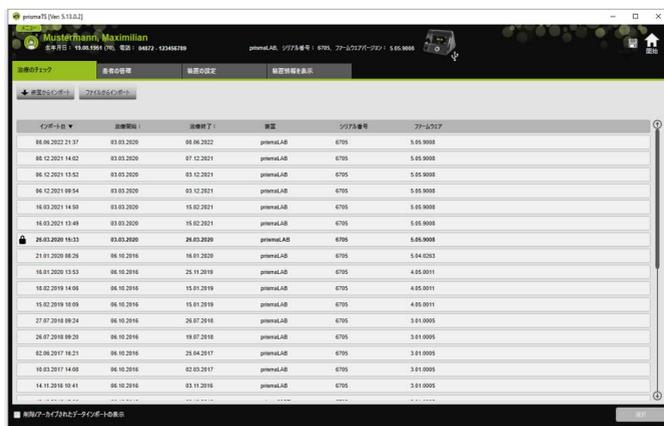
データを誤って違う患者に保存した場合は、その治療データを本来の患者に転送することができます（「[誤って割り当てられた治療データを正しい患者に割り当てる方法](#)」を参照）。

2.5.5 インポートされた治療データを開く方法

prismaTS が開いている場合：

1. 治療データが保存されている患者を選択します。

インポートリストには、患者に対してインポート可能な治療データのすべてが表示されます。



ヘッダーにある項目をクリックすることで、インポートリストの順序を並べ替えることができます。矢印は、昇順か降順かを示しています。

2. 目的の治療データを開くには、その治療データをダブルクリックします。

prismaTS が開いていない場合：

1. prismaTS ファイルをダブルクリックします。

prismaTS がスタートし、治療データがインポートされているかどうかをチェックします。治療データがすでにインポートされている場合は、治療データが開きます。治療データがまだインポートされていない場合は、インポートされます。

2.5.6 誤って割り当てられた治療データを正しい患者に割り当てる方法

インポートした治療データを誤って違う患者に保存した場合は、その治療データを別の患者に転送することができます。

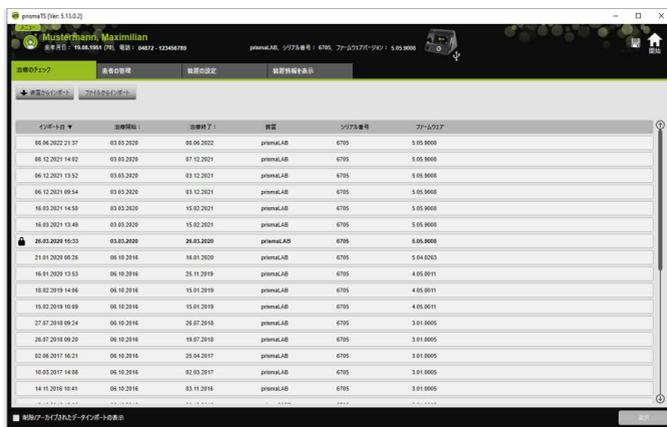
要件：

- 誤って治療データが割り当てられた患者の患者ファイルが開いていること。
1. インポートリストを開きます（「インポートされた治療データを開く方法」を参照）。

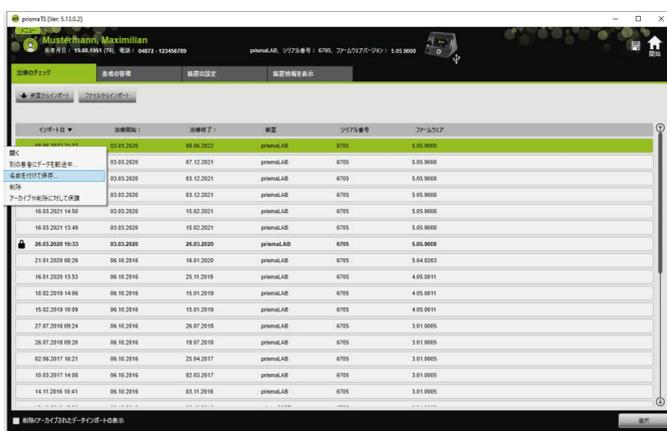
2.6 治療データのエクスポート

治療データをエクスポートして、外部にファイルとして保存することができます。そして、別のprismaTSデータベースに治療データをインポートすることができるようになります。

1. インポートリストを開きます（「インポートされた治療データを開く方法」を参照）。



2. 転送したい治療データを選択するには、目的の治療データをクリックします。
3. 右クリックして、コンテキストメニューを開きます。

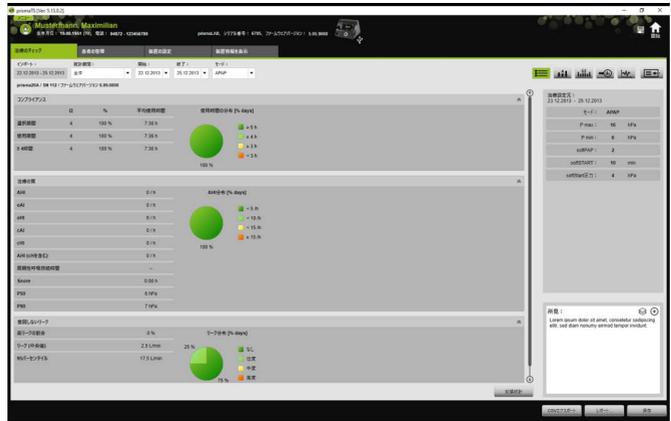


4. 名前を付けて保存...を選択して、ファイルを保存します。

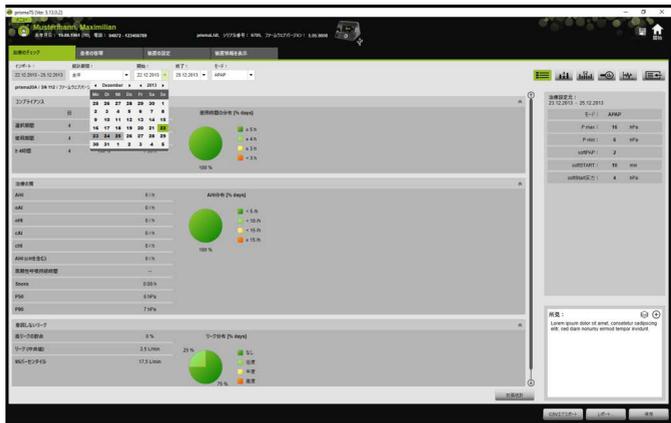
2.6.1 CSV ファイル (LM150TD 用ではありません)

これは、例えばレポートジェネレーターのERPシステムやHISシステム、あるいは研究用にインポートしたい場合の、データインポート用ファイルフォーマットです。

1. 必要な治療データを開きます (「インポートされた治療データを開く方法」を参照)。



2. 分析する期間を、**統計期間**リストで選択します。
または



3. 表示させる期間を、**開始:**と**終了:**リストで選択します。
4. **CSVエクスポート**をクリックします。

5. ファイルを保存します。

2.7 治療データを削除

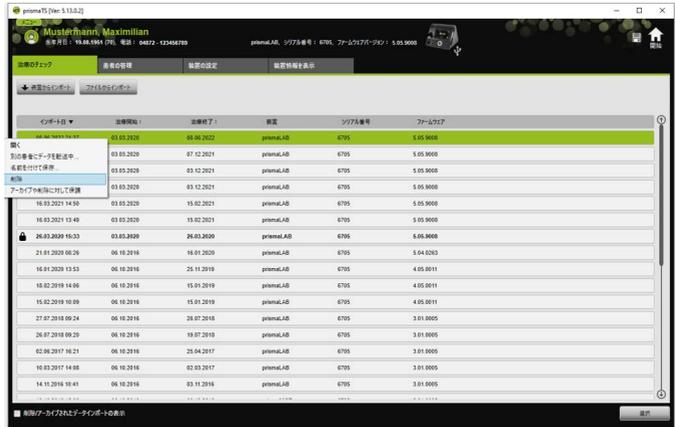


一定期間後に治療データを削除するには(「一定期間後に治療データを削除する」を参照)。

1. インポートリストを開きます(「インポートされた治療データを開く方法」を参照)。

インポート日	治療開始	治療終了	装置	シフト番号	ファイルID
08.06.2022 21:37	03.03.2020	08.06.2022	prismaLAB	6705	1.05.0005
08.12.2021 14:02	03.03.2020	07.12.2021	prismaLAB	6705	1.06.0005
06.12.2021 13:52	03.03.2020	03.12.2021	prismaLAB	6705	1.06.0005
06.12.2021 09:54	03.03.2020	03.12.2021	prismaLAB	6705	1.06.0005
16.03.2021 14:50	03.03.2020	15.02.2021	prismaLAB	6705	5.05.0005
16.03.2021 13:49	03.03.2020	15.02.2021	prismaLAB	6705	5.05.0005
26.03.2020 16:53	03.03.2020	26.03.2020	prismaLAB	6705	8.05.0005
21.01.2020 00:26	06.18.2016	16.01.2020	prismaLAB	6705	5.04.0203
16.01.2019 13:53	06.18.2016	25.11.2019	prismaLAB	6705	4.03.0011
16.02.2019 14:06	06.18.2016	15.01.2019	prismaLAB	6705	4.03.0011
15.02.2019 10:09	06.18.2016	15.01.2019	prismaLAB	6705	4.03.0011
27.07.2018 09:24	06.18.2016	26.07.2018	prismaLAB	6705	3.01.0005
26.07.2018 09:20	06.18.2016	19.07.2018	prismaLAB	6705	3.01.0005
02.06.2017 16:21	06.18.2016	25.04.2017	prismaLAB	6705	3.01.0005
10.03.2017 14:00	06.18.2016	02.03.2017	prismaLAB	6705	3.01.0005
14.11.2016 10:41	06.18.2016	03.11.2016	prismaLAB	6705	3.01.0005

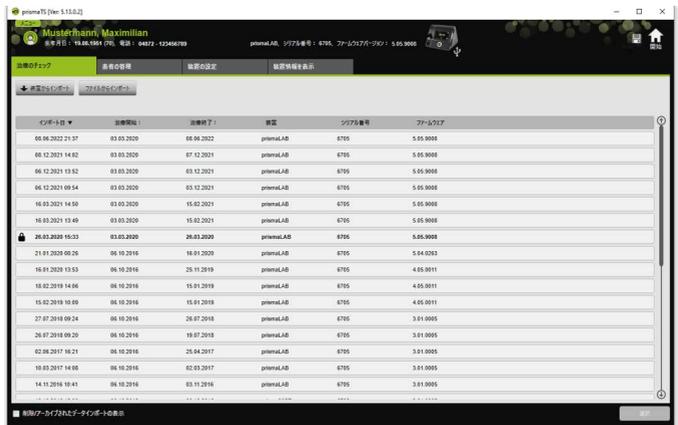
2. 転送したい治療データを選択するには、目的の治療データをクリックします。
3. 右クリックして、コンテキストメニューを開きます。



4. 削除を選択します。
5. 削除してよろしいですか？ というウィンドウで、はいをクリックします。

2.8 アーカイブや削除に対して治療データを保護する

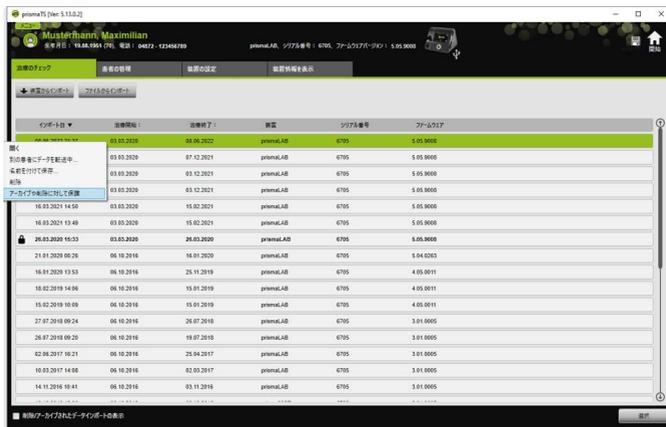
1. インポートリストを開きます (「インポートされた治療データを開く方法」を参照)。



2. 転送したい治療データを選択するには、目的の治療データをクリックします。

アーカイブや削除に対して治療データを保護する

1. 右クリックして、コンテキストメニューを開きます。

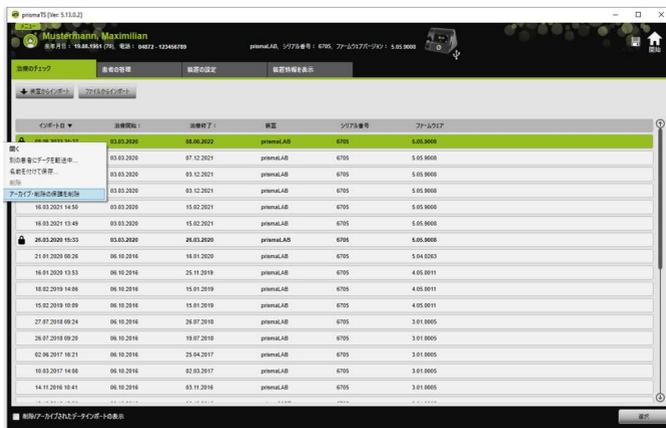


2. アーカイブや削除に対して保護を選択します。

エントリーは、南京錠記号で識別することができます。このエントリーは、一定期間後にアーカイブ・削除から除外されます。

治療データのアーカイブ・削除の保護を解除する

1. 右クリックして、コンテキストメニューを開きます。



2. アーカイブ・削除の保護を解除を選択します。

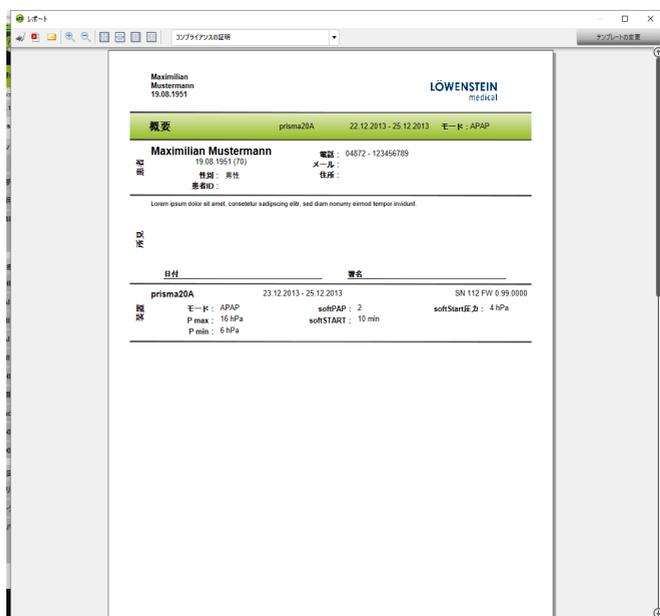
選択したエントリーの横にある南京錠記号が削除されます。このエントリーについて一定期間後にアーカイブ・削除が可能になります。

2.9 レポートの作成 (LM150TD 用ではありません)

レポートを作成することで、治療データをまとめて見やすい形式で保存し、印刷し、メールで送信することができます。レポートに含めたい内容に応じて、定義済みテンプレートを選択し使用するか、またはこれを元に自分のテンプレートを作成して使用することができます。

装置のタイプやモード、インポートの範囲によっては、必ずしもすべてのデータが完全には利用できないことがあります。その場合でもテンプレートを選択することができ、レポートは自動的に縮約されたフォーマットで生成されます。

1. 統計表示の**レポート...**をクリックします。



現在選択されている治療データが、毎回表示されます。

2. リストから定義済みテンプレートを選択します。

または

定義済みテンプレートに基づいて、新しいテンプレートを作成します ([「テンプレートの調整」](#)を参照)。



定義済みテンプレートは白色の背景で表示され、直接編集することはできません。自分で調整したテンプレートは灰色の背景で表示され、編集、削除、名前の変更ができます。

3. 印刷プレビューからレポートを印刷するには、**印刷**をクリックします。
4. 印刷プレビューからレポートをPDFとして保存するには、**PDF形式で保存**をクリックします。
5. PDF形式のレポートをメールで送信するには、**メールとして送信**をクリックします。
メールとして送信機能は、MAPI (例えばMicrosoft® Outlook) をサポートしているメールプログラムでのみ実行できます。



白黒印刷用のハイコントラストで図をエクスポートできるようにするには、この設定を**メニュー > オプション > 設定 > レポート**で変更します。

2.9.1 テンプレートの調整

定義済みテンプレートを選択し、必要なデータを含めるよう変更することができます。

1. **レポートウィンドウのテンプレートの調整**をクリックします。
2. **テンプレートの調整**ウィンドウの添付リレーとリストの中から、利用したいテンプレートを選択します。



スクリーンショットを信号表示からレポートに取り込むには、**信号データの表示**ボタンを有効にします。

3. テンプレートに含めたいデータの項目にチェックを入れ使用可能にします。
4. **名前を付けて保存...**をクリックし、変更したテンプレートに名前を付けます。
保存をクリックします。
テンプレートがPCに保存され、再び開いたり、編集したり、削除したりすることができます。

2.9.2 レポートのヘッダーのカスタマイズ

レポートのヘッダーをカスタマイズすることができます。この設定はすべてのレポートに適用されます。

1. **メニュー > オプション > 設定**をクリックします。



2. **オペレーター情報**をクリックします。
3. 医療機関および連絡先情報フィールドに、必要な情報を入力します。
このデータはレポートのヘッダーに表示されます。
4. ロゴをロードするには、**参照**ボタンをクリックして、ロードしたいロゴを選択します。
このロゴはレポートヘッダーに表示されます。寸法は自動的に調整されます。

5. 入力内容を保存するには、**適用**をクリックします。
6. 入力内容を保存して**prismaTS設定**ウィンドウを閉じるには、**OK**をクリックします。
7. 入力内容を保存しない場合は、**キャンセル**をクリックします。

2.10 装置情報の表示

要件：

- ・ 治療装置が接続されていること。
または
 - ・ 治療装置からのSDカードがPC内にあること。
 - ・ 装置または患者ファイルが選択されていること。
 - ・ 治療データは、装置からインポートされます（「治療データのインポート」を参照）。
1. **装置情報を表示**タブを選択します。



前回の治療データがインポートされたときの、装置データ、使用時間、治療時間の値が表示されます。治療装置のタイプによって、表示されるデータは多少異なります。個々のパラメータの詳しい情報は、治療装置の**専門家向け追加情報**か、臨床用使用説明書で見ることができます。

2. 使用時間と治療時間のデータを印刷するには、レポートを作成します（「レポートの作成(LM150TD用ではありません）」を参照）。

2.10.1 装置のインポート履歴を管理する

装置にこれまでにインポートされたデータすべてのリストが、インポート履歴としてリストされます。ファイルは患者に依存せず、それぞれのシリアル番号とともに選択された装置のみを参照します。

要件：

- 装置が選択されていること（「治療装置の選択」を参照）。
- **装置情報を表示**タブが開いていること。



1. インポートファイルを別の患者に割り当てるには、**装置のインポートリスト**セクションで、そのファイルを右クリックします。
2. **別の患者に移動中...**をクリックします。
3. ファイルを割り当てる患者を選択して、**OK**を押します。
または
4. ファイルを削除する、または別の場所に保存するには、そのファイルの上で右クリックして、それぞれのメニューを選択してください。

3 設定 (LM150TD 用ではありません)

prismaTSで治療・装置パラメータを設定してから、USB、LAN、またはSDカードを経由して治療装置に転送することができます。

prismaTS での設定					
	WM120TD	WM110TD	WM100TD	WM090TD	SOMNO 装置
SD カード 経由	-	-	バージョン 2.05	X	バージョン 10.0
LAN 経由	prismaTSlab でのみ	prismaTSlab でのみ	prismaTSlab でのみ	prismaTSlab でのみ	
USB 経由	-	-	X	-	Weinmann コンバーター ケーブル経由 デバイスが手 動で設定され ている、また はデバイスが prismaTSlab に接続されて いる場合、 設定は できま せん 。

3.1 パラメータを設定する

要件：

- 治療装置がUSBケーブルでPCに接続されていること
(「治療装置をPCに接続してインポートする場合」を参照)

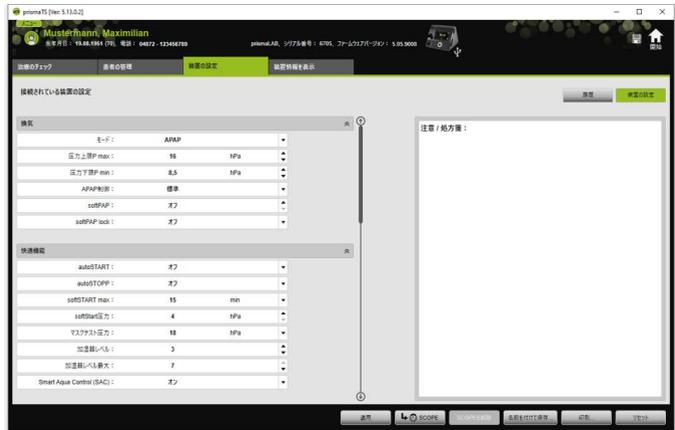
または

SDカードは、PCのSDカードスロットに挿入されていること。



SDカードで、治療装置を1回だけ設定することができます。

- 治療装置が選択されていること。



1. メイン画面で**装置の設定**タブをクリックします。
2. パラメータグループを開くまたは閉じるには、そのパラメータグループの右側にある矢印をクリックします。
3. パラメータを設定するには、矢印キーで必要な値を選択します。



どの治療装置でどのような治療パラメータ（換気、快適さ、付属品、およびアラームパラメータ）が設定できるかについての取扱は、治療装置の使用説明書を参照してください。

4. パラメータを治療装置に適用する場合や、パラメータをSDカードに保存する場合は、**適用**をクリックします。

! 注意

USB 接続を介した設定中に治療装置の電源供給が中断するとデータが失われます！

電源が途中で中断すると、設定が適切に実施されず、治療設定が不完全または不正確になり、患者の治療に支障、または負傷させる恐れがあります。

⇒ 設定中は、治療装置の電源を接続したままにしてください。



5. USB接続の場合：治療装置の古い設定を新しい設定で上書きするには、「設定が転送されました」というメッセージが表示されたときに、治療装置とPCの間のUSB接続を外します。

または

新しい設定を装置上で有効に**したくない**場合は、装置の電源を**切ってから**USBケーブルを外すか、またはリセットボタンをクリックします。

設定は治療装置には適用されず、既存の設定が保持されます。

6. SDカードの場合：治療装置の古い設定を新しい設定で上書きするには、「**設定が転送されました。**」というメッセージが表示されたときに、SDカードをPCから外します。それから、治療装置にSDカードを挿入します。

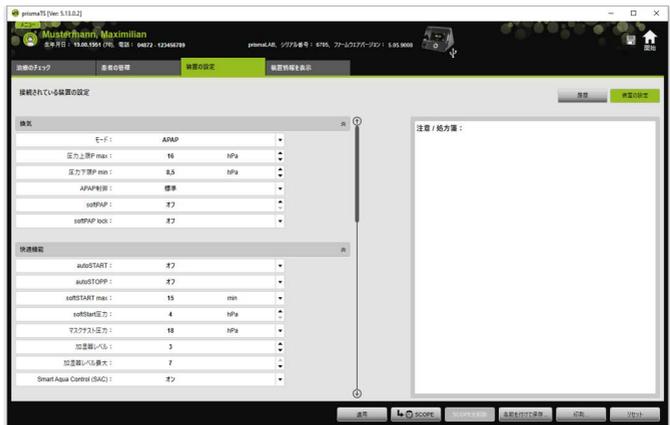


設定の後、時刻が変更された際には、必ず装置の設定をチェックしてください。

3.1.1 SCOPE (治療目標) を設定する

すべてのモードについて、SCOPEを定義および作成することができます (装置のタイプとファームウェアのバージョンによって異なります)。これにより、多くの患者について個々のパラメータを最適化するための時間のかかる複雑な作業が不要になります。また、特殊な要件が必要な場合はパラメータを直接調節することもできます。

1. **装置の設定**タブをクリックします。
2. SCOPEに必要な設定を行います。



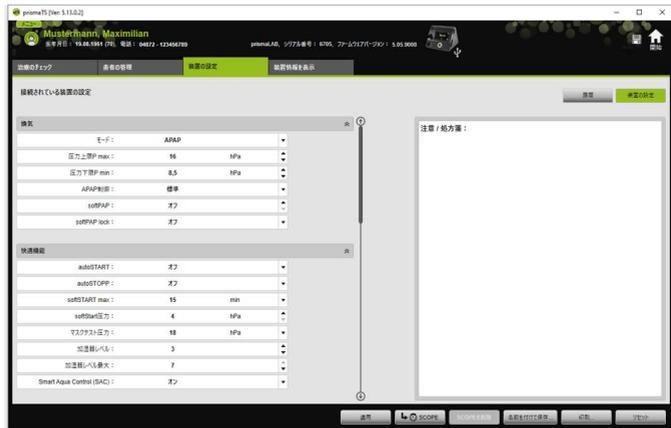
3. **SCOPE**をクリックして、画面内の換気パラメータをSCOPEとして保存します。
4. SCOPEに、分かりやすい名前をつけます。
このSCOPEが保存されます。
5. SCOPEを治療装置に適用するには、**適用**をクリックします。
6. ユーザー定義SCOPEを編集するには、**SCOPE**フィールド内で選択します。
設定を編集します。
7. ユーザー定義SCOPEを削除するには、**SCOPE**フィールド内で選択します。
SCOPEを削除をクリックします。

3.2 設定履歴の使用

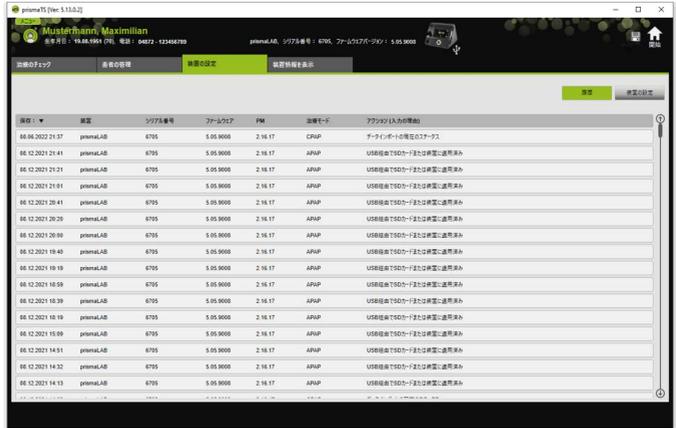
装置が設定履歴をサポートする場合、患者に関連するすべての設定は自動的に文書化されて、そこに保存されます。設定は再び表示させることができ、必要に応じて修正できます。また、装置の変更の場合や、治療最適化の目的で、SDカードにより治療装置に転送することができます。処方に従って、最後の設定を後で適用させて、結果を反映させ印刷、もしくはSDカードにより治療装置に転送することができます。

保存は自動的に行われます：

- データインポートの後に毎回；
- prismaTSで装置設定を行った後に毎回；
- 設定を印刷した後に毎回；
- 設定をエクスポートした後に毎回。



1. メイン画面で**装置の設定**タブをクリックします。



2. **履歴**をクリックします。
3. データ記録を開くには、必要な項目をダブルクリックします。
4. 必要に応じて設定を変更するには、**コピーの編集...**をクリックします。

または

設定をレポートに印刷するには、**印刷...**をクリックします。

または

空のSDカードに設定を保存するには、**名前を付けて保存...**をクリックします。

5. 現在の設定に戻すには、**装置の設定**をクリックします。



USB 接続またはSD カードを利用して、同じファームウェアバージョンの治療装置がPCに現在接続されている場合、設定を治療装置に転送することができます。

3.3 マスター SD カードの使用

マスターSDカードを使用することで、複数の治療装置を同じデータ（例えば希望するプリセット）で設定することができます。



マスターSDカードは、設定を行う場合にのみ使用できます。患者データのSDカードとして使用することは**できません**。必要に応じて、マスターSDカードへの変換の前に治療データをインポートします。

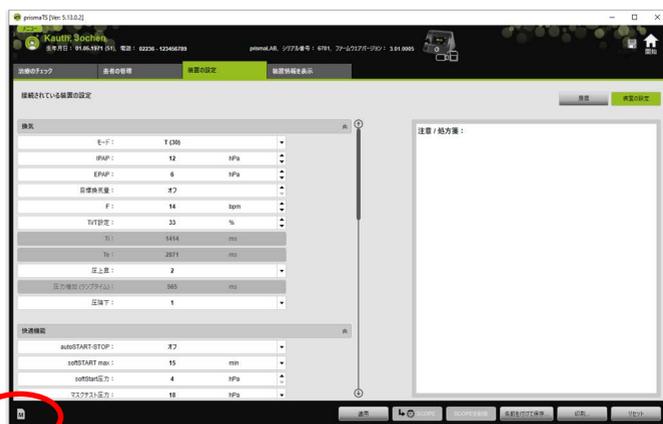
3.3.1 マスター SD カードの作成

SDカードをマスターカードとして作成することができます。

要件：

- 有効なSDカードがSDカードスロット内にあること。
- SDカードに患者データが含まれていないこと。
- SDカードが選択されていること（「治療装置の選択」を参照）。

1. **装置の設定** タブをクリックします。



2. マスターSDカード記号 **M** をクリックします。

3. **マスターカードを作成しますか？**という確ウィンドウでは**い**をクリックします。

3.3.2 マスター SD カードの設定

要件：

- 有効なマスターSDカードがSDカードスロット内にあること。
 - マスターSDカードが、利用可能な装置リストに表示されていること。
1. マスターSDカード記号 **M** をクリックします。
 2. 設定を編集します (「[パラメータを設定する](#)」を参照)。

3.4 一定期間後に治療データを削除・アーカイブする

一定期間後に治療データを削除・アーカイブすることができ、またアーカイブされた治療データを再インポートすることができます。これを行うには、prismaTSconfigプログラムで必要な設定を適用します。

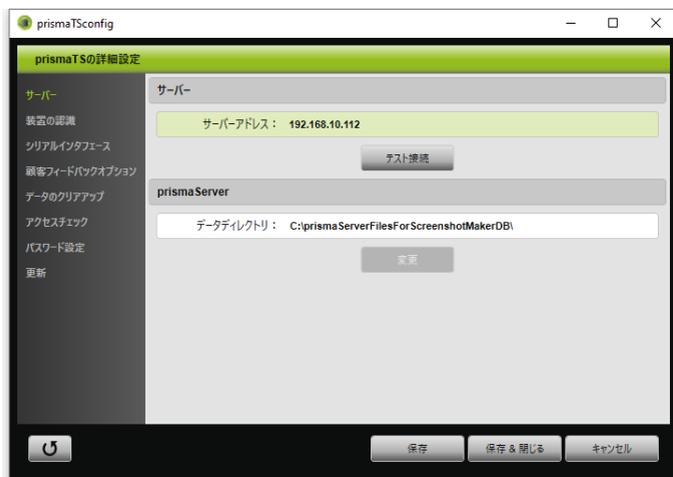


prismaTSconfigを起動するには、prismaTSとprismaTSlabを閉じておく必要があります。

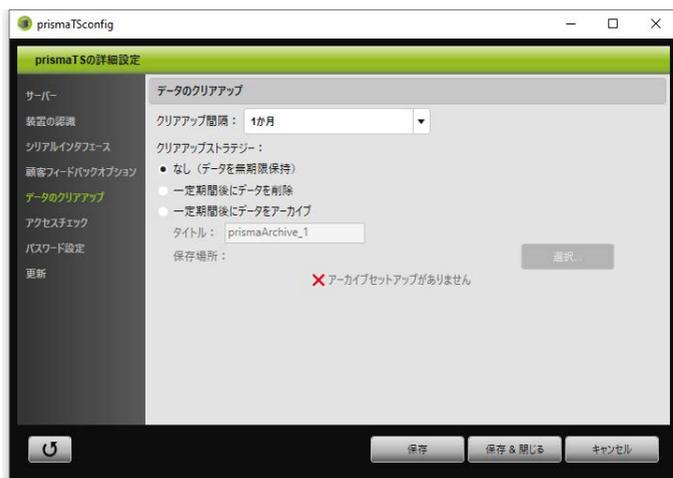
アーカイブや削除に対して治療データを保護するには (「[アーカイブや削除に対して治療データを保護する](#)」を参照)。

3.4.1 prismaTSconfig の起動

1. メニュー項目**スタート** > **プログラム** > **Löwenstein Medical Technology** > **ツール**を開き、**prismaTSconfig**をクリックします。



2. **データのクリアアップ**メニューをクリックします。



3.4.2 一定期間後にデータをアーカイブする

一定期間後に治療データをアーカイブすることができ、またアーカイブされた治療データを再インポートすることができます。

一定期間後に治療データをアーカイブする

1. 一定期間後に治療データをアーカイブするには、**データのクリアアップ**メニューで**クリアアップ間隔**ドロップダウンリストから必要な期間を選択します。
2. **一定期間後にデータをアーカイブ**オプションフィールドをアクティブにします。
3. アーカイブのために必要な名前を選択します。
4. アーカイブする治療データの保存場所を定義するには、**選択...**をクリックします。
5. 保存場所を定義して、**OK**をクリックします。
6. 治療データをアーカイブするには、**保存**をクリックします。
7. 治療データをアーカイブして**拡張prismaTS設定**メニューを閉じるには、**保存 & 閉じる**をクリックします。
8. prismaTSconfigプログラムを終了するには、**OK**をクリックします。

3.4.3 一定期間後に治療データを削除する



削除したファイルは復元することはできません。

一定期間後に治療データを削除することができます。削除した治療データは、ごみ箱記号で示されます。

1. 一定期間後に治療データを削除するには、**データのクリアアップ**メニューで**クリアアップ間隔**ドロップダウンリストから必要な期間を選択します。
2. **一定期間後にデータを削除**オプションフィールドをアクティブにします。
3. 治療データを削除するには、**保存**をクリックします。
4. 治療データを削除してprismaTSconfigプログラムを終了するには、**保存 & 閉じる**をクリックします。
5. prismaTSconfigプログラムを終了するには、**OK**をクリックします。

4 治療チェック

治療内容をチェックするには、いくつかの表示が使用できます：

-  統計表示
-  治療カレンダー
-  治療カレンダー年間表示
-  信号表示
-  治療分析

デバイスによって異なります。

4.1 統計表示を開く

要件：

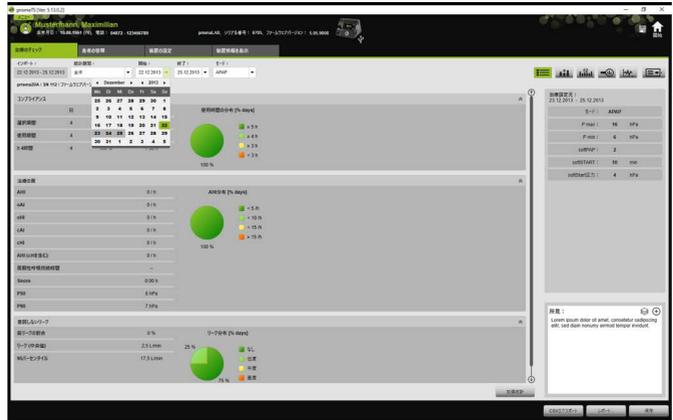
- 装置または患者ファイルが選択されていること。
- 装置から治療データがインポートされているか（「治療装置の選択」を参照）、または治療ファイルが開いていること（「インポートされた治療データを開く方法」を参照）。



1. 治療のチェックタブを選択します。
2. 統計表示を開くには、統計表示  をクリックします。

3. 分析する期間を、**統計期間**リストで選択します。

または



表示させる期間を、**開始：**と**終了：**リストで選択します。

4. 必要に応じて (WM100TDのみ)：統計期間を、単一の換気モードにフィルタリングします。

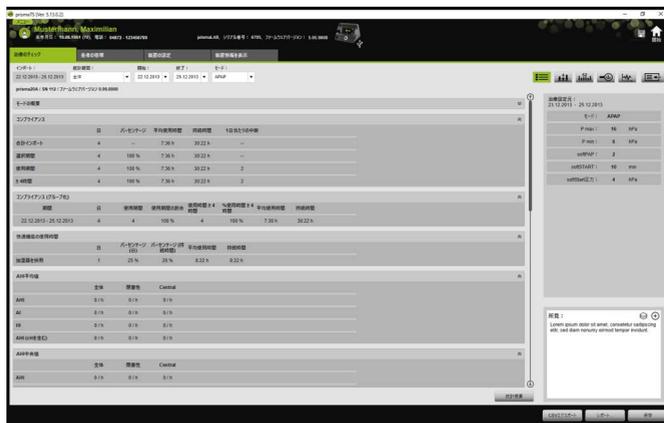
統計概要は、コンプライアンス、治療品質、リーク、SpO₂ (SpO₂モジュールが治療中に少なくとも1回接続された場合に限る)に関する最も重要な値を表示します。選択された期間について、それぞれの最後の治療設定が表示されます。



図や主索引を統計概要に表示するかどうかは、**メニュー > オプション > 設定 > 治療モニタリング**で設定できます。

白黒印刷 (レポート) 用のハイコントラストで図をエクスポートできるようにするには、この設定を**メニュー > オプション > 設定 > レポート**で変更します。

5. 治療に関して他の統計値を表示させるには、**拡張統計**をクリックします。



拡張統計表示は、モード、コンプライアンス、加湿器使用、AHI平均値、呼吸の特徴、圧力、リーク、SpO₂などの値を表示します。

- 表示されているパラメータの上にマウスを合わせると、個々のポイントについて詳細情報が表示されます。

4.2 治療カレンダーの表示

治療カレンダーは、顧客の使用パターン(患者が治療装置を何時間、何時から何時まで、何日使用したか)を提供します。加えて、治療カレンダーにはその期間のコンプライアンス、治療品質、リークのデータが表示されます。



表示は装置バージョンによって異なります。

- 治療カレンダーを日次データで表示するには、 **治療カレンダー** ボタンをクリックします。

あるいは

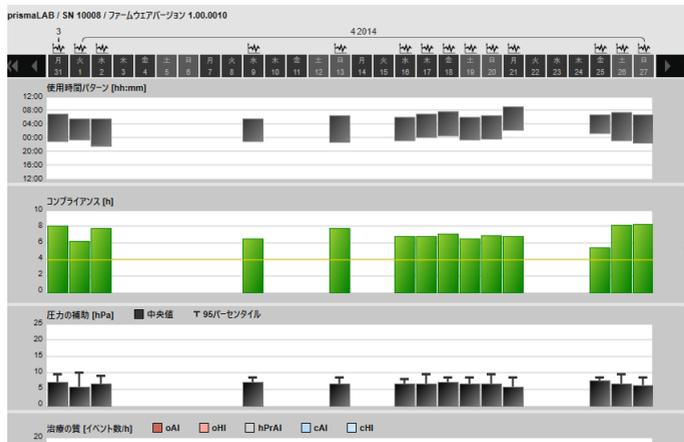
- 治療カレンダーを週次データで表示するには、 **治療カレンダー年間表示** ボタンをクリックします。



- 表示されているバーの上にマウスを合わせると、個々のポイントについて詳細情報が表示されます。
- 統計データ欄は、標準として、治療カレンダーの右側エリアに表示されます。
統計データ欄の表示を切り替えるには、**統計**をクリックします。
- 印刷..をクリックすると、患者の氏名・生年月日と共に現在の表示を出力します。

4.2.1 日に対する信号・イベントを表示する

治療カレンダーの  ボタンで、日に対する信号・イベントが表示されます。

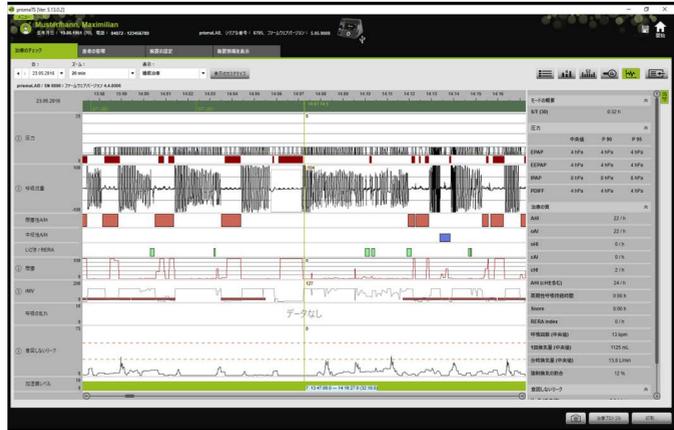


1. 任意の日の信号・イベントを表示させるには、 をクリックします。
 選択した日の信号表示が開きます（「信号データ表示を開く」を参照）。
2. 治療カレンダーをもう一度表示させるには、**治療カレンダー**  をクリックします。

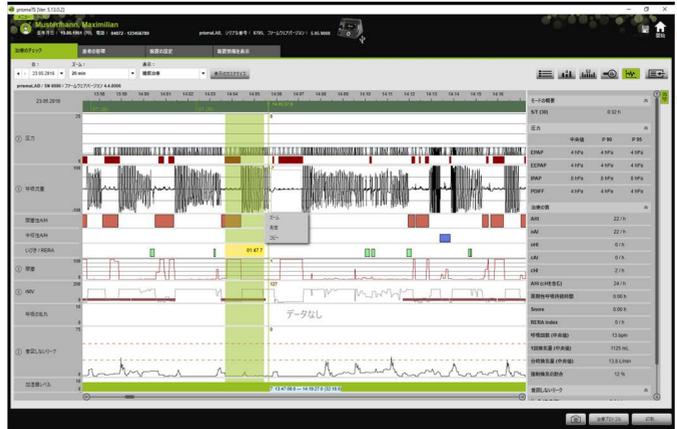
4.4 信号データ表示を開く

信号データ表示は、信号とイベントを表示します。

1. 信号データ表示を開くには、**データ**  をクリックします。



2. 統計データ欄は、標準として、信号表示の右側エリアに表示されます。
統計データ欄の表示を切り替えるには、**統計**をクリックします。
3. 必要な日を、**日**：リストから選択します。
矢印を使用して、1日ずつ前後させることができます。信号データがない日はスキップされます。
4. **ズーム**リストから、時間、分、秒単位で期間を選択します。
または

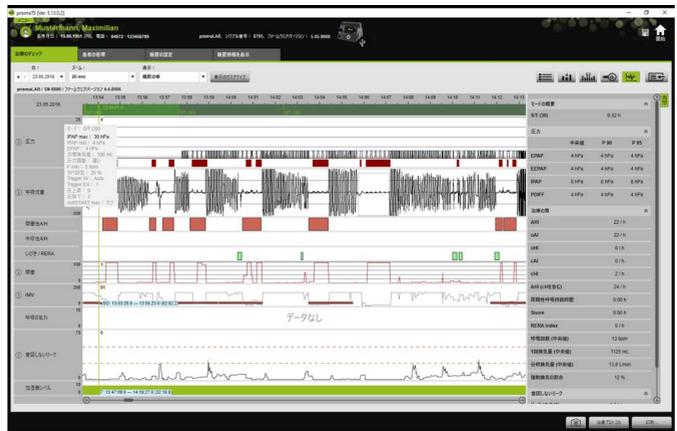


右クリックで開くコンテキストメニューを使ってズームします(「ズーム」を参照)。



装置バージョンによって、1つ又は複数の表示オプションが利用できます。選択されている表示オプションに従って、異なる信号・イベントが表示されます。

5. 必要に応じて：**表示**リストで、希望する表示オプションを選択してください。
どの装置が接続されているかによって、選択する際の表示は異なります。



4.4.1 信号データ表示のカスタマイズ

信号データ表示はカスタマイズできます。例えば、表示に必要なチャンネルを削除したり、必要に合わせてチャンネルの順序を変更したりできます。

1. **表示のカスタマイズ**をクリックします。
2. チャンネルを削除または追加するには、**表示のカスタマイズ**ウィンドウで対応するチャンネルを右クリックします。
3. 対応するエントリーを選択します。
4. チャンネルを移動させるには、そのチャンネルを左マウスボタンでクリックし、必要な位置までドラッグします。
5. 変更した設定を保存するには、**保存**をクリックします。

変更された表示は、リストの中で緑色のドットで識別でき、同じ名前で保存されます。

または

名前を付けて保存...をクリックします。

変更された表示に対する必要な名前を入力して、**OK**をクリックします。

変更された表示は、リストの中で緑色のドットで識別でき、指定した名前で保存されます。

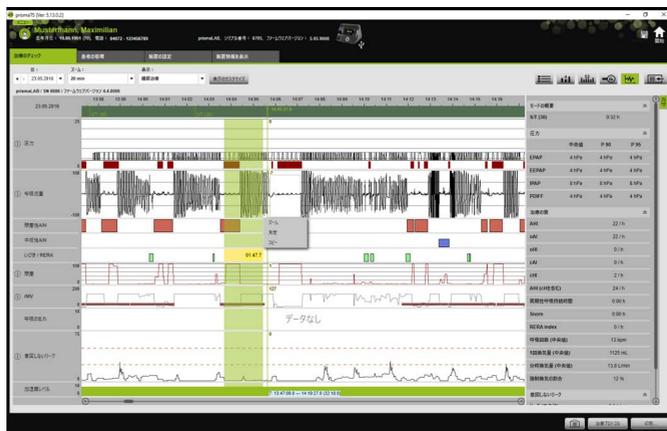
6. 自分の付けた名前で保存した設定を削除するには、**削除**をクリックします。
7. 保存した後、元の表示に戻りたい場合は、**デフォルトに戻す**をクリックします。
8. 自分の付けた名前で保存した設定を調整した後、その調整を破棄したい場合は、**リセット**をクリックします。

4.4.2 ズーム

治療データの一部を画面全体に拡大し、詳細を見ることができます。

水平ズーム

1. マウス左ボタンで、拡大したい期間の開始位置をマークします。
2. マウスボタンを押したまま、拡大したい期間の最後までドラッグします。
記録の表示部分の外に動かすと、表示が自動的にスクロールします。
3. マウスボタンから手を離します。



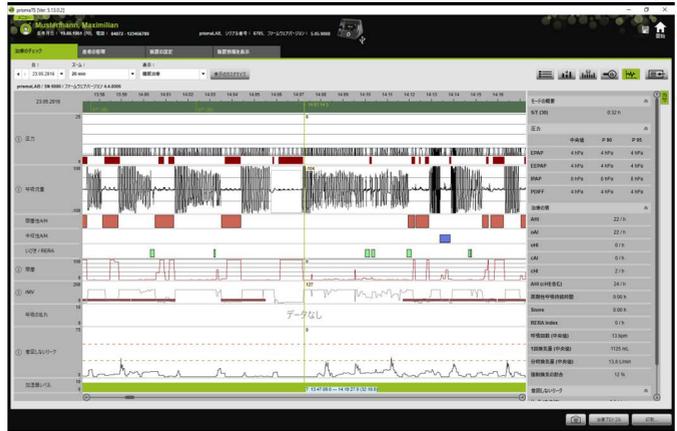
4. メニューが開くので、**ズーム**をクリックします。



測定の一部をダブルクリックすると、その部分が画面全体に拡大されます。このようにして、測定の概要と、詳細な信号データ部分とを切り替えることができます。別の信号データ部分を選択して、続けて詳しく分析することもできます。

垂直ズーム

1. チャンネル名をクリックします。

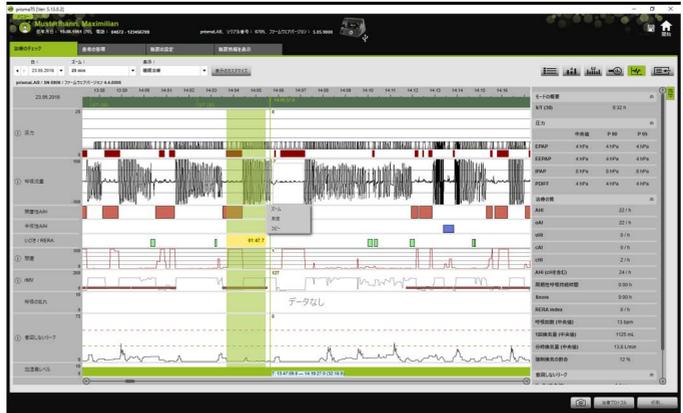


2. +または-記号をクリックして、信号の垂直解像度を拡大または縮小します。
3. 矢印キーを使用して、信号を上または下に動かすことができます。
4. 標準設定に戻すには、R (リセット) をクリックします。

4.4.3 期間または信号値の測定

信号データで選択されたチャンネル期間を測定することができます。

1. マウス左ボタンで、測定する期間の開始位置をマークします。
2. マウスボタンを押したまま、拡大したい期間の最後までドラッグします。
記録の表示部分の外に動かすと、表示が自動的にスクロールします。
カーソルには、現在マークされている期間の長さが表示されます。
3. マウスボタンから手を離します。
4. メニューが開き、ここで**測定**をクリックします。



4. メニューが開き、ここでコピーをクリックします。

4.4.5 スクリーンショットの作成

信号表示で最大10個のスクリーンショットを作成することが可能です。スクリーンショットはレポートに添付することができます (p. 32の「2.9.1 テンプレートの調整」を参照)。

1. スクリーンショットを作成するには、 ボタンをクリックします。
2. 作成したスクリーンショットは ボタンの横に表示されます。選択リストの中からスクリーンショットを削除するには、 ボタンをクリックします。

4.4.6 所見の入力

テンプレートなしで所見を入力する

1. 所見を入力するには、 **統計表示** をクリックします。**統計表示** ページが開いているときは、ボタンは緑色にハイライトされます 。
2. **所見** フィールドに所見を入力します。
3. **保存** をクリックします。

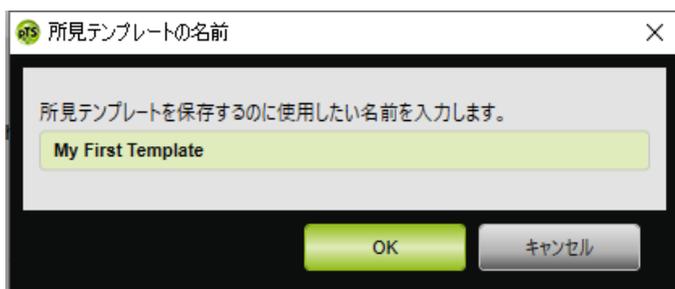
すでに開いているインポートと共に所見が保存され、印刷レポートに表示されます。

テンプレートを使って所見を入力する

所見フィールドでテキストをテンプレートとして保存し、保存した所見を**所見**フィールドにロードすることができます。所見は、自由に選択可能なテキストと保存された所見テンプレートの組み合わせとして作成できます。

所見をテンプレートとして保存する

1. 所見をテンプレートとして保存するには、テキストを**所見**フィールドに入力します。
2. **所見**フィールドの  をクリックします。



3. 所見テンプレートを保存するのに使用したい名前を入力します。
4. **OK**をクリックします。

保存された所見を所見フィールドにロードする

5. 保存された所見を**所見**フィールドにロードするには、**所見**フィールドの  をクリックします。
6. 必要な所見を、リストから選択します。
または
詳細...を選択します。



所見テンプレートを選択ウィンドウで、既存の所見の選択、削除、保存が可能です。
新規所見を作成するには、 をクリックします。

4.4.7 治療プロトコルの印刷

治療プロトコルには、夜間調節のすべてのイベント (例えばアラーム、イベント) が表形式で含まれています。特定のタイプのイベントのみをリストしたい場合は、タイプ別にフィルタすることができます。

1. 信号データ表示で**治療プロトコル**をクリックします。
2. 選択したタイプのイベントだけを治療プロトコルに表示したい場合は、**フィルタ**をクリックします。
3. 必要なイベントタイプを選択します。
4. **治療プロトコル**をクリックします。
5. **印刷...**をクリックして、治療プロトコルを印刷します。
6. 治療プロトコルから直接、信号データ表示内の特定のイベントにスミたい場合は、必要なイベントをダブルクリックするか、または**移動**をクリックします。

5 付録

5.1 テクニカルデータ

仕様	prismaTS
93/42/EEC (欧州医療機器指令) に基づく 製品等級	IIa
IEC 62304によるソフトウェアリスク分類	B

5.2 ラベルと記号

ラベル	説明
	ユーザーマニュアルに従ってください。
	製品識別番号 (医療機器の統一製品記号)
	製品が医療機器であることの表示
	CE マーク (本製品が現行の欧州指令 / 規則に適合していることの証明)

5.3 適合宣言書

メーカーである Löwenstein Medical Technology GmbH + Co. KG (Kronsaalsweg 40, 22525 Hamburg, ドイツ) は、本製品が医療機器に関する 93/42 EE 指令の関連規定に適合していることを宣言いたします。適合宣言書の全文は、メーカーのホームページでご覧いただけます。

EU 圏内：ユーザー・患者は、本製品と関連して発生したすべての重大な事故について、メーカーおよび管轄官庁に通知する義務を負います。

CE 0197

**Löwenstein Medical
Technology GmbH + Co. KG**
Kronsaalsweg 40
22525 Hamburg, Germany
T: +49 40 54702-0
F: +49 40 54702-461
www.loewensteinmedical.com



WM 67997n

LÖWENSTEIN
medical